

学年歌をつくろう！

－ タブレットで協働的に音楽制作 －

京都市立桂徳小学校 教諭 山本直樹

キーワード：タブレット、音楽制作、協働、シンキングツール

1. 従来の課題

「子ども達が目標にむかって一致団結する学級・学年をつくりたい」

教師であれば、だれでもそう願うだろう。そのために、学級・学年経営上のさまざまな手立てや工夫を行う。大きな行事の前に、学級旗をつくるような取組もそのひとつである。この旗と同じように学級の歌をつくれなにか。そう考えたのが、この実践を行うきっかけであった。

これまで、学級歌づくりは学級旗のように一般的ではなかった。コンピュータで音楽制作を行う DTM (DeskTop Music) ソフトウェアも普及しているが、その操作には高度な知識が必要なものが多い。ところが、タブレットの登場により、小学生でも手軽に音楽制作ができるようになった。画面上に鍵盤が現れてピアノやシンセサイザーの演奏ができるアプリ、指一本でコード（和音）をタッチ入力できる音楽アプリなどである。また楽器演奏や歌声を手軽に録音することもできる。そして、タブレットで音楽制作すると、プロの演奏のようなクオリティで仕上げるができる。このようなタブレットがもつ音楽との親和性をいかして行ったのが、本実践である。

※本実践は、第5学年で行ったものである。なお、子ども達の希望により、学級で別々の歌ではなく、学年で一つの歌づくり（＝学年歌）として取り組んだ。

2. 目標

本実践の目標は次の通りである。

- ・音楽制作の楽しさを味わい、音楽への興味関心を養う。
- ・学年に対する思いを言語化し、歌詞として表現する力を育てる。
- ・学年に対する思いを元にメロディーをイメージし、音楽をつくる力を育てる。
- ・他者と協働しながら問題解決する力を育てる。

3. 実践内容

3. 1 シンキングツールで思いを整理分析

学年歌をつくるというテーマに向かうには、まず自分たちの所属する学年に対する思いを共有する活動が不可欠と考えた。そこで最初に、子ども達一人ひとりに付箋紙を配り、「こんな学年にしたい！」という思いを書く活動を行った。それを8つのグループごとに持ち寄り、シンキングツールを活用して整理した。活用したシンキングツールは、Xチャート、Wチャートである。これは、多くの情報をまとまりごとに分類するためのツールで

ある。Xチャートは4つ、Wチャートは5つのまとまりに整理することができる。子ども達は、集まった付箋紙を見ながら、「これは友情について書いているな」とか「これは協力のことだな」という風に分類していった。グループ活動の後、学年歌制作実行委員が集まって、さらに学年の思いを整理・分析する活動を行った。8つのグループの結果を集めて、同じまとまりの付箋紙の枚数を数え、どんな思いが多く出されたかを分析した。その結果、「仲がいい」「何事にも前向きにがんばる」「困ったときに助け合う」「楽しく明るい」学年にしたい！という思いが多いことがわかった。これらの分析結果を、作詞にいかしていこう！ということになった。



Xチャートで思いを整理

3. 2 作詞活動・作曲活動

次に、歌をつくる活動に入っていった。歌づくりには、作詞・作曲という2つの側面がある。それらを学年全員で取り組むのは難しい。そこで、作詞・作曲それぞれやりたい子が立候補してグループを作った。その子ども達が学年の代表として歌づくりをし、他の子ども達はその作品を承認するという形式である。

作詞の前には、日本のポピュラー音楽の歌詞を使って作詞テクニック研究を行った。その中で、作詞には「倒置法」「反復法」「比喩法」「擬人法」「押韻」「体言止め」などの言語表現があることを学習した。この作詞テクニック研究の後、作詞活動を行った。作詞担当の子ども達は、学年に対する思いの分析結果を、うまく詩の表現に盛り込むことを意識して詩をつくっていった。

完成した歌詞は次の通りである。

桂徳小5年 学年歌「心をひとつに」

(1番)

楽しいことも 悲しいこともあるけれど
あきらめず進もうよ みんなでやりきろう
友達いないこと そんなのはありえない
仲間の笑顔を見るとね
勇気わいてくる

心をひとつにして
なにごとにもチャレンジしよう
心をひとつにしていこうよ
力合わせて

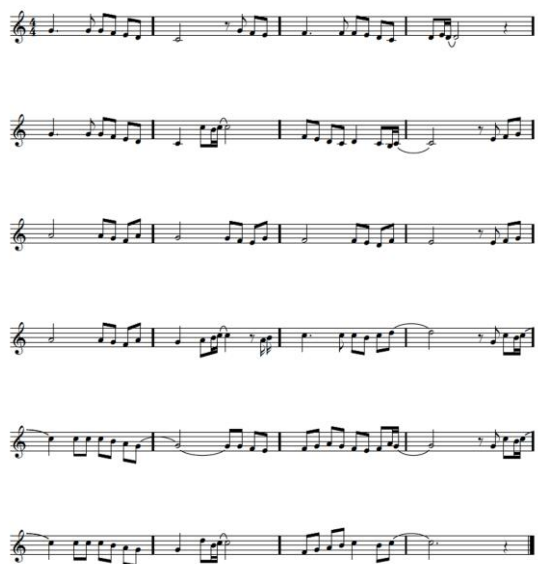
(2番)

まじめに学び 自分に自信をつけよう
ぼくたちはいつまでも みんな元気だよ
くじける時もある そんなとき支えあおう
いつでもみんなで乗り越える
そうさ一人じゃない

心をひとつにして
なにごとにも立ち向かおう
心をひとつにしてやりきろう
みんな微笑んで

作曲は、担当の子ども達が集まり、それぞれのメロディーのアイデアを出し合って、協働的に1つのものにまとめていった。部分的に既存の曲に類似したメロディーになった場合、よりオリジナル性の高いものに修正する作業も行った。そして完成したメロディーは、教師の支援によって楽譜化した。メロディーに対するコード(和音)付けも教師が行った。作詞・作曲それぞれの第1次案ができた時点で、詩とメロディーのすり合わせを行い、1つの歌として仕上げた。

桂徳小5年 学年歌「心をひとつに」



3. 3 タブレットで音楽制作

歌が完成すると、いよいよタブレットによる音楽制作である。タブレットは、Apple社のiPad、音楽制作アプリは、GarageBandを活用した。子ども達がGarageBandを使うのは、今回が初めてであった。そこで、事前にマニュアルをつくり、配付した。この手立てによって、子ども達は必要以上に教師に頼ることなく、円滑に作業を進めることができた。

iPadで音楽制作する手順は、伴奏づくり→メロディー入力→歌の録音である。伴奏は、歌のコード(和音)譜を見ながら、キーボード→ベース→ギター→ストリングス(弦楽器)の順にコード入力してつくっていった。リズムは、iPadが自動でつくり出すドラムのリズムパターンの中から、自分達の歌のイメージに合うものを選択した。そして、完成した伴奏に合わせて、メロディーも入力した。どの作業もほとんど指1本でできる簡単なもので、子ども達は楽しみながら活動していた。

最後に、GarageBandの録音機能を活用して、学年全員の歌声を録音した。録音機能には、リバーブ(残響)などのエフェクト機能があり、まるでコンサートホールで歌ったかのように仕上げるができる。録音した歌声を聴いて、子ども達は大喜びしていた。このように、本実践は、伴奏づくりから歌の録音まで1台でできるiPadのAll in Oneのメリットをいかして行った。

完成した学年歌は、10月に行った宿泊学習のテーマソングとなった。それ以降、あらゆる行事の際に歌い続けて、子ども達の絆を深めるのに役立った。



iPadにメロディー入力

4. 成果

「自分達の歌をつくる」という明確な目的意識があったので、子ども達は最後まで意欲的に活動した。活動後には、「自分達でこんな本格的な歌ができて、すごくうれしい!」という感想が見られた。10月の宿泊学習では、キャンドルファイアの最後に、みんな輪になり肩を組んで学年歌を大合唱した。3泊4日という大きなイベントを締めくくるのにふさわしい、感動的な一場面となった。

子ども達が自分たちの学年に誇りを持ち、その絆を深めるために行った実践であるが、そのねらいは十分に達成できたと考えている。

5. 今後に向けて

学級歌・学年歌づくりは、子ども達の絆をふかめるために大変有効であると考えている。そのため、どの学校でも取り組めるように、D-project(※)という研究会で学級歌づくりワークショップキットを作成した。平成26年度、27年度の2年間で、浜松や東京、京都において計4回のワークショップを実施している。今後は、このワークショップを中心に、学級歌づくりの取組を全国的に広めていきたい。

※ D-project URL <http://www.d-project.jp>